

熱田神宮

熱田神宮宝物館

編集 内田雅之

宝物館だより

〒456-8585

名古屋市熱田区神宮一丁目1番1号

TEL (052)671-0852 FAX (052)671-1202

(年6回発行)

秋季企画展 「明治の光輝～明治150年記念展～」より



明治天皇御料 御齋服^{おんさいふく} 1領 明治時代
(御袍) 丈177.3cm 身幅82.7cm 明治神宮蔵

御齋服(御祭服)は、天皇のお召しになられる御神事用の御服として最も清浄かつ神聖なもので、純白生織りのままの絹で作られた御齋衣といわれる御袍を召される。これは淳和天皇の踐祚の時より始まるといわれ、形式は平安時代初期の縫腋袍の形式を遺し、襷には蟻先はなく、重ね襷の入襷、襷の上に覆^{おおい}がつけられる。年中恒例の重大な神事である新嘗^{にいなめ}祭に用いられる他、御即位儀式の内、大嘗宮の悠紀・主基^{すき}兩殿供饌の儀に用いられる。



明治天皇御料 陸軍御正服^{おんせいふく} 1揃 明治時代
(御上衣) 襟下78.8cm 肩幅71.5cm

明治神宮蔵

御上衣・御袴・御肩章・御飾帯・御正剣帯・第一種御軍帽の御正服一式で、明治19年改正のものである。御上衣は表地黒羅紗、裏絹朱子で、袖章金モール太線1条細線7条、参謀肩章金モール、桜花金鍍金釦の装飾がなされている。御軍帽は黒羅紗地に横10条縦3条の金モールを縫い、上面は金モールで丸に星模様をあしらい、御前立は羽毛製で、上部を白、下部を赤く染め、根に金鍍金を施している。

明治19年7月6日、ヨーロッパ各国の服制に倣い、天皇特別の御服を廃し、新たに改定された陸軍大将の服と同制のものとし、肩章のみに特殊の制式をあらわすこととなった。

9月平常展 — 熱田神宮宝物展 —

8月31日(金)～9月25日(火)
(期間中無休)

※展示品は毎月入替いたします

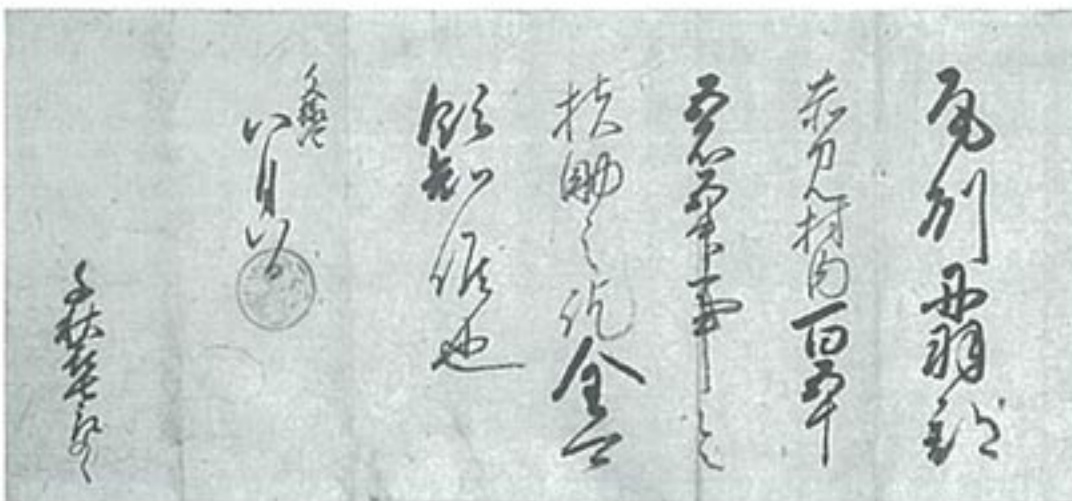
一展示品より一



きくちらしそうかくきょう
菊散双鶴鏡 白銅鑄製 1面 室町時代
面径 16.8cm

白銅鑄製の円鏡で、中央の亀甲文鈕上部には鈕より少し離れて接嘴する双鶴を据え、内区外区に分ける事なく、3つを一単位とした菊花を全面に散らしている。

鈕の亀甲文は多少大型であるが、鑄上りも良く、縁と鈕の間には一重の界圏をめぐらした肉薄の鏡である。



とよとみひでよししゅいんじょう
豊臣秀吉朱印状(折紙) 紙本墨書 1通 桃山時代
縦 46.4cm 横 66.0cm

この文書は、⁽¹⁵⁹⁵⁾文禄4年8月8日、豊臣秀吉が当時当神宮の大宮司であった千秋季信にあてて、尾張国丹羽郡赤見村(現一宮市赤見)の内、150石余りを給したものである。この他、同日付で季信の母にも150石が給されている。

本文書は折紙形式で、料紙は檀紙である。(写真は部分)

尾州丹羽郡	赤見村内百五十	五石五升事、令	扶二助之一訖、全可二	領知一候也	文禄四 八月八日 (朱印)	千秋季信 (季信) 殿
-------	---------	---------	------------	-------	---------------------	-------------------

その他の主な展示品

◎重文 ○県文

- 《書 跡》 ○寛永十三年熱田万句 延享三年中秋十五夜宝前詠十五首和歌 徳川家定知行朱印状
- 《工 芸》 ◎菊蒔絵手箱 ◎木造舞楽面 崑崙八仙 ○古箏 籬菊双鶴鏡 菊蒔絵香合 菊紋手筥 他
- 《刀 剣》 ◎短刀 銘 国光 徳治三年 ○太刀 銘 七十一翁 莊司美濃介藤原直胤 脇指 銘 長曾根興里入道 席徹 他
- 《コーナー展示～絵画～》 蓬園屏風-田中訥言筆- 花鳥園屏風-森高雅筆- 伝三公像-浮田一蕙筆- 葡萄園 藤原師長像-渡辺清筆- 有職消息文画帖-冷泉為恭筆- 旭日桜花園-横山大観筆- 紅白梅-前田青邨筆- 神鷄-川合玉堂筆- 里の童子-鍋木清方筆- 蓬萊仙境園-石川英鳳筆- 無題-藤田嗣治筆- 他

秋季企画展 「明治の光輝 ～明治150年記念展～」

当館は昭和41年に開館し、平成28年に50周年を迎えました。開館当初の昭和43年正月、初めての特別展として「明治維新百年記念展」が開催され、その主旨文には「言語を絶する内外の危機に立って、維新の人々は生命をかけ、心血注いで国を守り抜き、維新の大事業を成し遂げました。そのゆかりの品々を通じて、明治維新の心を偲びたいと思います」と示されています。

この佳節より更に半世紀を経て、平成30年は明治維新150年を迎えました。神武創業に立ち返る精神を念頭に、アジア諸国に先駆け、近代日本の歩みを進められた明治天皇、さらには陰日向となり大帝をお支えになられた人々のゆかりの品々を展覧することにより、明治の精神を次世代に継承するべく、改めて顕彰していただく機会といたく本展を開催いたします。幾多の優れた先賢が、不撓不屈の精力を傾けて築き上げた、光輝ある祖国繁栄の歴史を偲んでいただければ幸いに存じます。

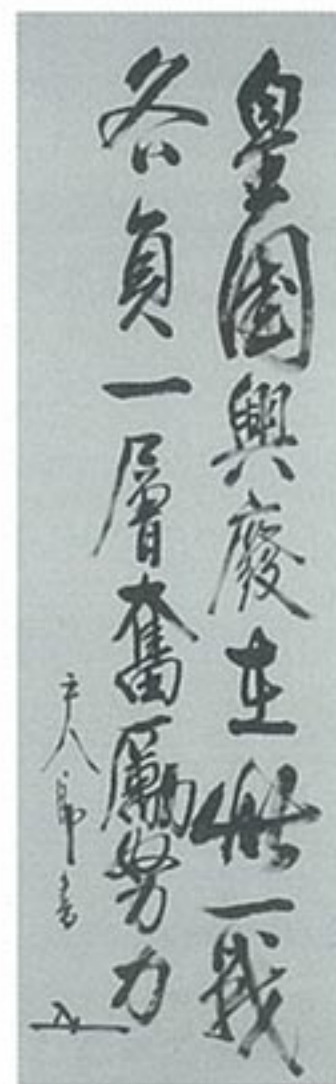
- 会 期 平成30年9月28日（金）～10月30日（火）（会期中無休）
- 時 間 午前9時～午後4時30分（入館は午後4時10分まで）
- 主 催 熱田神宮宝物館 中日新聞社
- 後 援 愛知県神社庁 愛知県教育委員会 名古屋市教育委員会
- 拝観料 大人 500円（300円） 小中学生 200円（100円） ※（ ）は20名以上の団体料金
- 主な展示品 （◎国宝 ◎重要文化財 ○県指定文化財 所蔵先記載のないものは全て熱田神宮蔵）
 明治天皇立像（渡辺長男作） 御軍服（明治13年御改正） 昭憲皇太后御着用御縫御召
 明治天皇御料 御煙草盆（明治神宮蔵） 日露戦争終戦奉告祭御祭文 ◎太刀 銘 吉房（東京国立博物館蔵）
 ◎太刀 銘 備中青江住右衛門尉平吉次（東京国立博物館蔵） 御殉死当日の乃木將軍夫妻（乃木神社蔵）
 東郷平八郎元帥日露戦争後使用中のノート（東郷神社蔵） ○明治天皇御奉幣大判 ◎太刀 銘 宗吉作



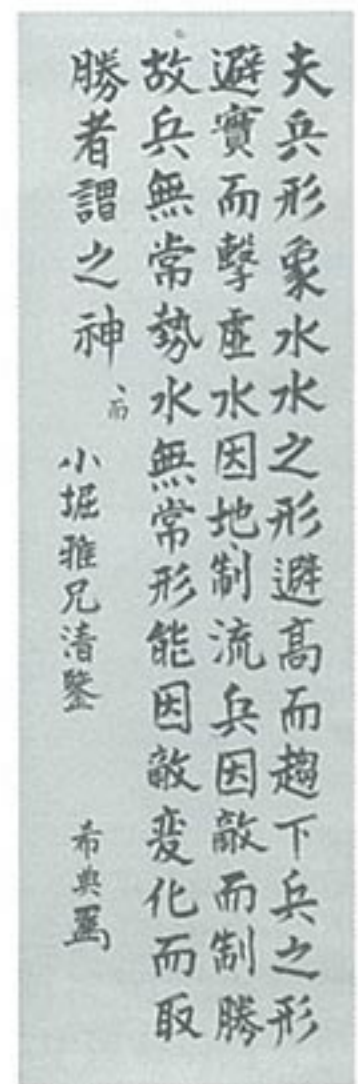
明治・昭憲兩陛下御宸筆
熱田神宮蔵



明治神宮之図 横山大観筆
明治神宮蔵



二行書 東郷平八郎筆
東郷神社蔵



孫子一節 乃木希典筆
乃木神社蔵

一企画展より一



東郷元帥指揮刀拵 1腰 総長 80.0cm 明治時代 東郷神社蔵

東郷神社御神宝のひとつで、東郷元帥が当時の皇太子殿下（大正天皇）より御下賜された海軍指揮刀の拵である。柄は鮫皮に金線を巻き、護拳には桜花葉高彫文が配され、鍔兼用折りたたみ刀身止錠蓋を附す。鞘は黒革で包み、飾金具は金鍍金で、魚々子地に桐紋と桜花が毛彫りであらわされる。刀緒は丸紐、房は赤線（旭日）入り瓢箪型である。通常海軍指揮刀に彫られる桜花葉文のみではなく、桐紋が据えられている。中には備前一文字吉房が収められている。



乃木將軍御使用単眼鏡 1個 明治時代
長さ 10.5cm 横径 5.5cm 縦径 10.0cm 乃木神社蔵

乃木將軍愛用の単眼鏡で、ドイツ製の双眼鏡を改造したものである。難攻不落の二百三高地攻略の際、旅順港封鎖をはじめとする様々な戦況を見つめ続けたレンズである。なぜ双眼鏡でなく単眼鏡に改めたのか。乃木將軍が幼少の頃、母親が蚊帳を畳む際、吊手が誤って將軍の左目に当たり、以来殆ど視力を失ってしまったが、単眼鏡について誰に聞かれてもこの方が見やすいと仰せられたとの逸話がある。親思いの將軍は生涯そのことを口にしなかったが、妹の稲子が將軍の通夜の席で初めて明かしたという。



明治天皇覽穫之図 絹本著色 1幅
縦 35.5cm 横 55.8cm 小田切春陵筆
明治時代 つくは祢屋蔵

(1868)
明治元年9月27日、明治天皇が東幸の途次、熱田神宮参拝の後、八丁堰（現瑞穂区神穂通）の神田で、農民が新穀を収穫する様子を御覧になり、農はわが国の基であることをお示しになられた。本画はその様子を描いたものである。

画中の識語より、明治30年に『尾張名所図会』の挿図で著名な小田切春江の遺作を、子の春陵が補訂したことが判る。

また、本画を参考にして昭和5年の明治神宮御鎮座10年祭記念の奉納画（当時公爵であった徳川義親が明治神宮に奉納）を森村宜稲に揮毫させたことが、つくは祢屋当主石黒家所蔵文書より伺うことが出来る。